

教育委員会協議会 会議録

平成29年度第2回教育委員会協議会

場所：安芸市民会館 2階「4・5号」

(1) 開会及び閉会に関する事項

開会 平成29年11月21日(木) 18:00

閉会 平成29年11月21日(木) 20:07

(2) 教育委員会出席者及び欠席者の氏名

出席委員	教育長	田村 壮児
	教育委員	平田 健一
	教育委員	竹島 晶代
	教育委員	八田 章光
	教育委員	中橋 紅美
	教育委員	木村 祐二

(3) 高知県教育委員会会議規則第8条、第9条の規定によって出席した者の氏名

高知県教育委員会事務局	教育次長	北村 強
〃	教育次長	藤中 雄輔
〃	教育次長	永野 隆史
〃	高等学校課課長	高岸 憲二
〃	高等学校課企画監(再編振興室長)	山岡 正文
〃	高等学校課課長補佐	藤田 優子
〃	高等学校課再編振興担当チーフ	池上 淑子
〃	高等学校課指導主事	野中 昭良(会議録作成)
〃	教育政策課課長	酒井 啓至
〃	教育政策課指導主事	小島 丈晴(会議録作成)

【開会】

田村教育長	<p>本日は、県立高等学校再編振興計画の「後期実施計画」の検討を行います、高知県教育委員会協議会を開催いたしましたところ、3人の教育長さんをはじめ、この問題に関心を持っていただいている多くの皆さんにご参加いただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>県立高等学校再編振興計画は、急速に減少している生徒数、それから、南海トラフ地震による津波、こういったことを考慮しながら、これからのグローバル化が進み、情報化が進む、急激に変化していく社会のなかで、より良い教育環境を実現する県立高等学校の在り方を探るための、そういったものを示そうとするものでございます。</p> <p>平成26年10月に平成26年～30年の計画期間でございます「前期実施計画」とともに本計画を策定をしております、そのなかでは前期実施計画期間中ということは、平成30年度までに平成31年～35年度までの「後期実施計画」を策定するというようになっておまして、先日、10月24日を皮切りに、この教育委員会協議会での検討を始めたところでございます。</p>
-------	---

<p>中橋委員</p>	<p>県立高等学校については、それぞれの地域の皆さんに大変お世話になっているところでございます。</p> <p>また一方で、地域の皆さん方から、いろんな形でのご期待をいただいている、というようなこともございまして、今回の検討にあたりましては、それぞれの地域の方々にぜひお話をお伺いをということで、県内を5つのブロックに分けて、こうやって出向きまして、ご意見を伺おうということにさせていただいたところでございます。</p> <p>「前期実施計画」では、計画内容が固まった段階で公表したことで、色々と混乱といったこともございました。そういうようなこともございまして、今回の「後期実施計画」においては、検討の初めからご意見を伺うこととし、そのご意見をできるだけ反映させた形で計画をつくっていこうと、このような方法をとらせていただきたいということでございます。</p> <p>今日が、ブロック別のこういった協議会の最初の会でございますので、どうかよろしくお願ひしたいと思います。簡単ではございますけれども、ご挨拶とさせていただきます。</p> <p>それでは、早速、協議会を進めさせていただきたいと思いますが、本日の議事録への署名人は中橋委員、よろしくお願ひいたします。</p> <p>はい。</p>
-------------	--

【議題】

○県立高等学校再編振興計画「後期実施計画」の策定について

<p>田村教育長</p>	<p>それでは、まず、事務局の方から説明をお願いします。</p>
<p>山岡企画監</p>	<p>まず、資料1から説明させていただきます。</p> <p>「県立高等学校再編振興計画」は、平成26年10月に策定いたしました。その実施計画の後期分、平成31年～35年度の策定スケジュールを載せております。</p> <p>まず、「後期実施計画」の「中間とりまとめ（たたき台）」を、30年4月、来年4月に策定する予定にしております。その策定に当たり、教育委員会協議会という公開の場で、広く県民の皆様の意見を聴きながら取組を進めていきたいと考えています。</p> <p>前回は事務局のみでたたき台を決めていましたが、今回の「後期実施計画」の策定は、たたき台を出す前の段階から広く地域の皆さんの声を聴きながら、丁寧に実施したいと考えています。</p> <p>1回目の教育委員会協議会は、先月24日に開催し、県立中学校、高等学校の現状等に関して協議いたしました。</p> <p>2回目～6回目までは、東部、中部、北部、高吾、幡多の各地域に出向いて、地域別に、各地域内の学校についての再編振興に関する意見を聴く会議、地域会を開催することとしています。本日は、地域会の1回目です。</p> <p>7回目以降は、地域会で出た意見を踏まえながら、「中間とりまとめ（たたき台）」の策定に向けて、委員の皆様にご協議いただくことにしています。</p> <p>平成30年度当初、4月下旬に「中間とりまとめ（たたき台）」の決定を行い、その内容を公表したいというふうに考えております。</p>

それ以降は、「最終とりまとめ（パブコメ案）」の策定に当たり、大きな影響が予想される学校の関係者、例えば、校友会やPTA などにも参加していただき、開催したいというふうに考えております。

平成 30 年 9 月ごろに、「最終とりまとめ（パブコメ案）」を決定し、12 月ごろには、「後期実施計画」を策定したいというふうに考えております。

続きまして、資料 2 をご覧ください。津波浸水域の県立高等学校の一覧について、ご説明させていただきます。

表にもありますように、津波浸水域にある県立高等学校は 13 校あり、最大クラス（L2）の地震・津波が発生した場合で、堤防なしの場合の浸水深と、30cm の津波が到達するまでの時間を表にしています。

浸水深が最も大きいのは、土佐清水市の清水高校で、浸水深が 12m であり、この東部地域では、安芸高校と安芸桜ヶ丘高校が 5m となっています。

また、30cm の津波が到達するまでの時間が最も短いのは、清水高校で 11 分です。この東部地域では、安芸高校が 57 分、安芸桜ヶ丘高校が 95 分となっています。

「前期実施計画」における南海トラフ地震への対応として、適地への移転や、そのための統合の可能性を含め、対応を検討することが必要な学校は、安芸高校、高知南高校、須崎高校、宿毛高校、清水高校の 5 校です。

安芸高校につきましては、南校舎を 4 階建てに改築するといった整備を行いました。北校舎、本館についても耐震工事を行うとともに、地域の住民の皆様も北校舎に避難できるようにいたしました。

そして、避難場所としましては、校舎の上の階や屋上という学校が 7 校あります。それ以外の学校は、例えば安芸桜ヶ丘高校が、安芸市総合運動場の補助グラウンドであり、避難距離は 200m で、避難が完了するまでの時間がおよそ 10 分となっています。

続きまして、資料 3 をご覧ください。資料 3 は、地域別中学校卒業生数の推移でございます。

「前期実施計画」でも、時点は違いますが、同じグラフを載せておりました。今回のグラフは、平成 29 年 3 月までが実績で、平成 30 年 3 月以降が推計になっています。

平成 25 年 3 月を基準とした場合、平成 29 年 3 月の卒業生は、県全体で 6,543 人であり、4 年間で▲（マイナス）238 人、▲3.5% となっていますが、平成 35 年 3 月の卒業生は 5,543 人であり、10 年間で▲1,238 人、パーセントで申しますと、18.3% の減になっています。

平成 25 年 3 月を基準とした場合、平成 29 年 3 月の卒業生を地域別に見た場合、高吾地域が▲118 人、▲15.9% と、減少した人数、減少した割合ともに他の地域に比べて大きくなっています。

また、平成 25 年 3 月を基準とした場合、平成 35 年 3 月の卒業生を地域別に見た場合、減少すると見込まれる人数は、中部地域が最も多く 551 人、次いで高吾地域、幡多地域がともに 252 人となっており、減少すると見込まれる割合は、北部地域が最も高く 36.5%、次いで高吾地域が 34.0% となっています。

続きまして、資料 4 をご覧ください。A3 の横の表になっております。平成 27 年度以降の入学者数又は在籍者数の実態について、ご説明させていただきます。

平成 27 年度～平成 29 年度までの全日制、多部制単位制（昼間）、多部制単

位制（夜間）、定時制などの入学定員、入学者数及び在籍者数の一覧表です。

まず、表の見方をご説明します。全日制の本校の最低規模は、1学年2学級以上が必要と、原則としてなっております。そこが表の右から2つ目の欄、「最低規模（該当に●）」というふうな所に書いております。

ただそこが、著しく近隣に他の高等学校がないといった、中山間地域の学校は、最低規模を1学年1学級20人以上などとすることにより、できるだけ維持することとしています。

また、不登校や中途退学を経験した生徒、発達障害のある生徒などを受け入れる体制を整えた学校についても、最低規模を1学年1学級20人以上として、できるだけ維持することとしています。

定時制、夜間部の学校は、学校全体の生徒数、在籍者数を20人以上に緩和し、各地域での維持に努めることとしています。

そして、表の見方としまして、白抜きの部分ですけれども、白抜きはこの最低規模、今申しました白抜きの部分は、最低規模を下回っている学校、学科でございます。

そして網かけが、濃い網かけと薄い網かけがありますけれども、濃い網かけは、入学定員に対しまして入学者数が40人、1クラス以上少ない学校、学科であります。薄い網かけは、入学定員に対して入学者数が半分以下の学校、学科であります。

東部地域の情勢について、まず全日制からご説明いたします。

安芸高校は、平成27年度と平成28年度について、40人以上下回っていますので濃い網かけとしております。

安芸桜ヶ丘高校では、平成29年度は、環境建設科の土木専攻、環境エネルギー科、情報ビジネス科で定員の半分以下ということから、薄い網かけをしております。

次に、多部制単位制の昼間部につきましては、最低規模を1学年1学級20人以上としているところですが、中芸高校の平成29年度入学者が11人であり、最低規模を下回っていますので、白抜きとなっております。これは、A3の表の右の部分です。

次に、多部制単位制の夜間部と定時制夜間部につきましては、最低規模を学校全体の生徒数20人以上としているところですが、中芸高校、室戸高校で20人を下回っていますので、白抜きとなっております。

続きまして、資料5をご覧ください。資料5の県立中学校入学者募集について、ご説明させていただきます。

県立安芸中学校は、平成27年度まで入学定員を70人としていましたが、平成28年度からは60人にしております。

県立安芸中学校の志願者数は、平成27年度は入学定員を超える78人でしたが、平成28年度は59人、平成29年度は36人と、入学定員を下回っております。そのため志願倍率は、平成27年度は1.1、平成28年度は0.98、平成29年度は0.60となっております。志願倍率が1を下回っている年度があるのは、県立安芸中学校のみとなっております。

続きまして、資料6をご覧ください。県立中学校生出身市町村における小学校6年生の人数について、ご説明をさせていただきます。

平成29年度と平成34年度を比較しますと、県立安芸中学校の区域では、583人から516人となり、11.4%の減少となっております。

県立高知南中学校の区域では、平成 33 年度で募集停止のため、平成 32 年度までしか表はありませんけれども、人数的にはほぼ横ばいとなっています。

県立中村中学校の区域では、761 人から 692 人となり、9.0%の減少となっております。

続きまして、資料 7 をご覧ください。資料 7 は、前期実施計画からの継続検討事項及び適正規模に関する検討事項について、東部地域に係る部分のご説明をさせていただきます。

一つ目の、前期実施計画からの継続検討事項としましては、生徒数の減少が認められるなかで、田野町と安芸市にある中芸高校、安芸高校、安芸桜ヶ丘高校の 3 校の、将来的な在り方を検討する必要があるものと記載されています。

また、安芸高校につきましては、前期実施計画のなかで、南海トラフ地震への対応のため、適地への移転を検討するものとされています。

続きまして、2 です。「県立高等学校再編振興計画」で定めた適正規模に関する検討事項としては、5 つの項目を挙げています。適正規模に関する検討をするといいましても、学校や地域の振興策も踏まえるとともに、これから開催していく地域会における、地域の皆様からのご意見を十分に聴きながら進めていきたいというふうに考えております。

一つ目、(1) の本校の部分です。本校の最低規模は、先ほども申し上げましたが、本校では原則として 1 学年 2 学級以上ですけれども、過疎化が著しく近隣に他の高等学校がない学校や、不登校や中途退学を経験した生徒、発達障害のある生徒などへの支援体制を整えた学校については、特例として、1 学年 1 学級 20 人以上を最低規模として維持することとしています。

この点、現状課題として、学び直しの機能を持った学校で、最低規模を下回っている学校としては、中芸高校があり、平成 29 年度の入学生が 11 人となっております。

(2) の分校をとばしまして、(3) 併設型中高一貫教育校につきましては、ここにつきましては、東部、中央部、西部の 3 地域での配置を維持するものと、「前期の実施計画」では記載されています。

この点、現状課題としましては、県立安芸中学校の志願者が減少し、生徒の確保が課題となっています。県立安芸中学校につきましては、平成 29 年度において定員 60 人に対しまして、志願者が 36 人に留まり、入学者が 35 人となっております。

続きまして、(4) 総合学科の学校でございます。

生徒数の減少等により、学校によって、複数の系列を置くことが困難な場合には、生徒数や地域の実情を踏まえつつ、必要に応じて普通科への改編も検討することとされています。

この点、現状課題としては、室戸高校の入学者が減少し、現在の 4 系列の維持が困難となってきています。室戸高校における現在の系列は、文理総合系列、IT・アート系列、生活福祉系列、機械技術系列の 4 系列ですけれども、平成 29 年度は定員が 80 人のところ、入学者が 42 人に留まっています。

続きまして、(5) 定時制(夜間部)の最低規模でございます。

定時制(夜間部)の最低規模は、様々な学びを保障するため、学校全体の生徒数を 20 人以上とされています。この基準も従前の、1 学年 1 学級 10 人以上という基準から緩和したものとなっています。

この点、現状課題としては、室戸高校と中芸高校は 3 年連続して、学校全体

	の生徒数を 20 人以上とする基準を下回る状態になっております。説明は以上です。
田村教育長	前回もお話させていただいたことの確認ということになるかと思えますけれど、今の説明につきまして、何かございますか。ご質問、よろしいでしょうか。
各委員	意見なし

○東部地域の県立学校の現状、今後の状況について

田村教育長	それでは、引き続きまして、資料 8 以下を説明してもらいたいと思います。
山岡企画監	<p>資料 8 の説明をさせていただきます。資料 8 は、「前期実施計画」で明記した学校の在り方に係る現在の状況について、ご説明をさせていただきます。</p> <p>室戸高校につきましては、全日制です。全日制は、「室戸学」や「ジオパーク学」を開講し、人材の育成を図っているほか、女子硬式野球部による生徒確保に努めております。また、平成 28 年度は、6 人が国公立大学に合格しております。</p> <p>また、室戸高校の定時制では、地域の方々が聴講生として学んでおります。そして、中芸高校の昼間部では、1 年次に「SST（ソーシャルスキルトレーニング）」を設置し、社会的に必要なスキルの習得に力を入れております。また、不登校の経験者や発達障害の生徒の在籍率は 51%となっております。</p> <p>また、中芸高校の夜間部でも、地域の方々が聴講生として学んでおります。続きまして、安芸中学校・高等学校ですけれども、45 分 7 時間授業とか、土曜補習の実施を通して、授業時数の確保と学力向上に努めております。そして、安芸高等学校では、毎年約 20%の生徒が国公立大学へ、さらに 4%が難関私立大学へも進学しております。</p> <p>平成 29 年度からは、東部地域の運動部活動強化拠点校として、部活動の強化にも積極的に取り組んでおられます。</p> <p>そして、安芸桜ヶ丘高校の工業科では、ものづくり競技会やデザインコンペへの参加、そして、出前授業による校種間交流の促進、そして、防災施設の建設や登山道の整備による、地域連携・地域貢献の取組を実践しております。</p> <p>続きまして、安芸桜ヶ丘高校の商業科では、商い甲子園や桜市等、実践教育によるスペシャリストの育成を行ったり、平成 29 年度商業高校フードグランプリ 2017 全国大会で、「なすのプリン」が全国優勝といった成果をあげております。</p> <p>なお、環境エネルギー科を平成 30 年度から募集停止とし、工業科 1 科、商業科 1 科の 1 学年 2 学科というふうになります。</p> <p>続きまして、資料 9 です。資料 9 は、資料 3 にありました、地域別中学校卒業生数の推移の内訳を市町村ごとに出したものです。</p> <p>私立高校などに行く生徒を除いた数値となっておりますので、現在の中学生とは若干ズレておりますが、これが本当の地域別中学校卒業生数の推移ということで、数値を載せております。以上でございます。</p>

田村教育長	今説明をしたことについて、ご意見、ご質問等ございますか。
各委員	意見なし
田村教育長	<p>ただ今、事務局から、この再編振興計画に照らした現在の東部地域のそれぞれの学校の取組状況等について、説明をさせていただいたところでございます。</p> <p>また、併せまして、この東部地域の中学校卒業生の状況等についても、資料として出させていただいたところでございます。</p> <p>こういったことを踏まえて、地元の教育長さんからご意見を伺いたいというふうに思っておりますので、順次お願いしたいと思います。</p>

○地域からの意見聴取

田村教育長	それでは、室戸市教育長さん、よろしくお願ひしたいと思います。
室戸市教育長	<p>室戸市教育長です。よろしくお願ひします。</p> <p>私、就任して、まだ2年になっていません。1年7カ月ですので、就任以前のことなんかも十分把握できてないところがありましたので、出て来る前に、教育委員会の中で、課長等にも話を聴きながら、ここへ寄せてもらいました。</p> <p>それで、多分私の話は、前段が10分、結論が3分みたいな話になろうかと思いますが、よろしくお願ひします。</p> <p>先ほどの県教育長の挨拶のなかで、児童生徒数の激減の話が出てきたんですが、室戸市も例にもれず、本当に激減というような実態です。室戸市の中でも、小中学校の統廃合検討委員会が継続して開催されているようなところでして、小中学校ではありませんが、先日一つ、保育所閉園という記事が高知新聞に出たかと思ひます。</p> <p>そういう実態のなかで、保護者・地域の想いというのは、非常によく分かるということもあるんですが、現実には教員数減で学校運営が難しいということと、想いと現実のなかの狭間で非常に難しい判断と申ひますか、慎重な判断と申ひますか、そのようなことをしているのが実態・現状でございます。</p> <p>いつも私、会議の挨拶で出す言葉が、想いも分かるんですが、やはり子どもにとってどうなのかということ判断基準として、この後、協議・検討していきましようということをお話しています。</p> <p>ということで、今回の県教委の再編を十分理解をしつつ、本日はその地元、室戸の想いを伝えるという、今日は、私はそういう立場かなと思ひて参加させていただきましたので、少し室戸市の状況をまず話させてください。</p> <p>ということで、まず室戸高校への想いの一つとして、支援と交流を少し話させてください。</p> <p>まず、室戸高校への支援ということについてなんですが、平成27年に室戸高校生と室戸市長と協議の場を持って、高校生会議というのを開いて、高校生から色々意見、知恵・アイデアをいただきながら、市政にも反映していくということで取り組んできております。</p> <p>そこで、一つハード面では、先日も県教委から感謝状もいただいたんですが、生徒の寮へのエアコンの設置29台であるとか、それから先ほどの資料の中で</p>

も出てきました、話題の女子野球部、これだけではないんですけども、運動公園のハード面の整備、充実。ネットであるとか、ゲージであるとかっていうことも含めて、そういうハード面での支援を可能な範囲でさせていただいています。

また、先ほどの資料でも出てきました、ジオ学につきましては、専門員も派遣するなど、そういうできる限りの支援ということでやらせていただいています。

もう一方、やはり双方向理解というところになりますと、交流ということも大事だと思います。

教員間の交流という部分でいきますと、小中学校の研究主任会に室戸高校の先生も入っていただいて、実は昨日も、室戸高校の方に、授業参観で小中学校の教員が寄せてもらったということがあります。1月には逆に、小中学校に室戸高校の教員も参加して、連携へつなげていくというようことをしております。

それから、生徒間の交流でいきますと、児童会・生徒会交流へ高校生が参加して、色々アドバイスも含めて、小中学生をリードしていただく場を持つであるとか。それから、平成27年度からは、室戸高校の総合学科の研究発表会に、市内の全中学生を参加させるというようなことであるとか。全部の中学校ではございませんが、夏休みの補習には、室戸高校生に来ていただいて、補習に協力していただくとかいうことであります。

それから、ジオ学でいきますと、今日も少しジオパーク観光で話を聞いて来たんですが、商品開発であったり、外へのPRの動画作成であったり。

あとは、産業祭であったり、鯨船レースであったり、桜祭り等々。それから、昨日もちょうど、交通安全協力隊の活動に私も出くわしたんですが、そんなことで、行事への参加と協力を高校生にさせていただいています。

これは一部ですが、こういう取組を通して、小中学校、地域と、それから室戸高校の高校生が、双方向理解に努めているような実態があります。

結論的なこととなりますが、室戸高校の必要性、全日制、定時制も含めてですが、当然のことながら、ぜひ存続、続けていただきたいと思っております。

個人的には、もし室戸高校がなくなるっていうことを考えますと、Uターン、Iターンはあるにしろ、人口減少に拍車がかかるのではないかなど。個人的にはすごく心配、不安もあるんです。

何より、必要性のところではありますと、室戸高校はやはり、地理的側面が一番大きいと私は思います。東部の、しかも東の端で、子どもたちのことを考えると、地理的な選択肢が今のところ一つなんです。

それから、2つ目はやはり経済的な側面、これも大きいだらうということをおもいます。厳しい環境にある子どもたちも多数おります。その中で、バス代であったり、下宿代であるっていうことを思うだけでも、なかなか厳しいであろうと。

3点目に、ちなみに室戸市の小中学校のキャリア教育の目標・テーマは、ざっくり言いますと、「ふるさとを愛する心を持った児童生徒の育成」っていうことで取り組んでいますので、そういう小中学校の活動はもちろん、その先導役として、高校生、先ほどのジオ学を含めて、高校生の存在は絶対に必要だろうなと思うようなところで。

最後になりますが、室戸高校といえば、先ほどもお話に出ました、女子野球

<p>田村教育長</p>	<p>部がすごく話題になっているんですが、市としても精一杯支援をしていきたいと考えているところです。一例として、女子野球部の一期生の一人なんですが、県外の確か広島県の出身だったかな。高知銀行の室戸支店に就職してくれまして、そのまま室戸で生活、活躍してくれている女性がいます。</p> <p>非常にありがたく、私たちも大事に大事にと思っっているんですが、そういう先輩の後を受けて、今後もそういう人物が育って、ふるさとを愛する心を持った高校生が増えてくれることを期待しています。</p> <p>市としましては、精一杯の応援をしたいと考えていますので、室戸高校の存続をよろしくというようなところでお願いします。</p>
<p>八田委員</p>	<p>どうもありがとうございます。大変、室戸高校を大事に想っていただいているということは、ありがたく思いました。基本的には、定時制も含めて存続してもらいたいということのお話だったと思います。</p> <p>それでは、委員の皆さんの方からご質問があれば、お願いしたいと思います。</p>
<p>室戸市教育長</p>	<p>どうも、今日のご意見ありがとうございます。</p> <p>おっしゃるように、地理的に非常に厳しいということでもあるし、そこから安芸市等へ通うというのは、経済的にも厳しいというのは本当によく分かりました。</p> <p>ジオ学を中心に少しお話いただきましたが、室戸でこれから活躍する人材ということが大事だと思うんですけども、ジオ学、ジオパークも一つなんですが、室戸市はジオパークだけではなくて、室戸市のまちとしては、将来どんなまち、産業をやっている、だからどんな子どもたちが育つのか。</p> <p>それは実は、子どもたちだけの問題ではなくて、大人がどんな方向に変わっていくとか、発展していくのか。非常に難しい問題かもしれないですけど、そういうところがなければ、やはり人口が減ってしまう一方になってしまうと。</p> <p>観光は一つの大きな柱なんだけれども、何かもうあと一つ二つ、何かこう、室戸市はこういうまちになっていくという、子どもたちが夢を持つようなものが、本当はあればいいのかなと。ちょっと無理なことかもしれませんが、何かそういうことを、室戸市としてどんなふう話をされているのかなというのを、もし伺えればと思うんですが、お願いします。</p>
	<p>難しいですね。市長が来てれば一番いいんですけども、私も先ほども申しましたように、まだ就任して1年7カ月間です。</p> <p>非常に産業云々にしても、体力が弱っているようなところなんですが、ジオだけではないという先ほどの話だったんですけども、やはりジオパークというのは、人と人とのつながりも含めたパークですので、その人と人とのつながりであるとか、人との温かさっていうのをまず基盤にして、それを愛する子どもであったりとかは大切です。</p> <p>先日も高知新聞でずっと連載してくれたんですが、神祭一つとっても、後継者にも苦労しながら、そういうのも存続していこうという、そういう機運がありますので、まずはその、人と人とのつながりというところなんです。</p> <p>産業、企業ということになりますと、もう体力が弱ってきているっていうの</p>

	<p>が、正直なところなんです、地元への就職率は、室戸高校の校長先生もいらっしやいますので、聞いていただいたらいいと思います。</p> <p>私自身、教員出身ですので、退職前に室戸市の吉良川中学校っていう所で勤務してました。そこで、子どもたちの話し声とか、それから面接も含めたなかの、実際は違ってくると思うんですが、吉良川中学校の子どもたちを私が面接した結果では、ほとんどの子どもがやはり将来、室戸で仕事をしたいっていうのが、もう大部分でした。うまく言えないんですが、そういう子どもを育てたいという想いで、教育をしていました。</p> <p>産業発展の部分は、ちょっと私では難しいんですけどね。すみません、答えにならなくて。</p>
八田委員	いえいえ、無理なこと、失礼なことを挙げたので。
室戸市教育長	市長と一緒に来るとよかったですけども、申し訳ないです。
室戸高校卒業生	ちょっと言いたいですけど、いいですか。
教育長	はい、どうぞ。
室戸高校卒業生	<p>室戸高校の卒業生ですが、自分は高校の就職をする時に、先生が家庭訪問に来た際にどうしますかって言われた時には、まだ仕事を決めていませんでした。</p> <p>それで、先生が「あなたは保育士か栄養士はどうですかって」、すごい勧めてくれて、お母さんもお父さんもその時はいたので、徳島文理の方に進んで、今も保育士をしています。</p> <p>それで、卒業が決まる前の2月に、室戸市の岬の保育園が保育士のアルバイトを募集していて、自分はそのバイトに行って、そのままうそこに就職しました。</p> <p>だから、なんか、室戸で仕事をするのは当たり前に思っていました。それぐらい、やっぱり自分は室戸が好きです。それを言いたかったです。</p>
田村教育長	ありがとうございました。
中橋委員	<p>今日はありがとうございます。室戸に対する想いっていうのは、強く感じるところであるんですけども、その想いが今現在、室戸高校に設置されている総合学科という、その学科、また、あと定時制も設置されていますけれども、その設置について、その想いとどのようにリンクできているのか、もう少しいい方法が考えられるのか。</p> <p>少しその辺り、今現在設置されている学科について、どのようにお考えになっているのでしょうか。</p>

室戸市 教育長	<p>その辺になりますと、私的な考えも入ってくると思うんですが、総合学科だとか、普通科だとかいう話題は、時々耳にもするし、考えていかななくてはならない問題だなということは、重々承知しています。</p> <p>それで、本当に個人的な考えになるのかと思いますが、現実問題として、生徒数と教職員数の関係というのは、当然私も思います。いずれ、それを判断する時期は来るとは思うんですけども、今現時点では、総合学科か普通科かということよりも、総合の良さであったり、メリットであったりを、改めてアピールする。</p> <p>先ほどの私のコメントのなかにもありました、総合学科の発表会に全中学生を参加させるであるとか、児童会・生徒会で高校生と交流するであるとか。その辺から、その良さも、児童生徒にも分かっていただくというか、理解していただくというか、双方向理解なんですけど、そんな時期ではないかなと。この答えになってないんですが、そう思っております。</p> <p>生徒数と教職員数っていうのも、これは、切り離せない問題だと思います。そこは理解していますので、いずれっていうことは、この激減の数を見た時に、判断しなくてはいけないと思っています。判断材料としては、私個人的にはやはり、子どもにとってどうなのかっていうことで、判断をしていく時が来るとは思っています。</p> <p>今現時点で、私の個人的な考えとすれば、やはり、改めて総合学科の良さを、双方向理解していくっていう時期だというふうに思っています。</p>
中橋委員	<p>定時制については、どうでしょうか。</p>
室戸市 教育長	<p>定時制についても、ぜひ存続してほしいと思っています。</p> <p>定時制の統合とかっていうことも、もしかすると、県教委の方は視野に入っているのかもしれませんが、先ほどの地理的なことであるとか、経済的なことも含めて、特に夜間の通学とかっていうことになれば、これは交通事故も含めて、心配です。よって、近くに学校があってほしいということです。</p> <p>それと、これも個人的なんですけど、定時制の先生方と生徒の関係も含めて、私の知っている範囲というか、大変丁寧に対応してくれて、子どもたちが成長していると感じています。特に、毎年卒業式にも参加させていただくんですけども、子どもたちの成長した姿が見えます。先ほど言いました、私が現役の時にいた子どもが、今も室戸高校の定時制にいるんですが、もう成長している姿がひしひしと伝わってきています。</p> <p>非常にありがたく感じていますので、先ほどの地理的なことも一番あるんですが、少人数で子どもたちに丁寧に対処して指導してくれている先生方、今までどおり、ぜひこの姿を続けてほしいというのが、私の願いです。</p>
竹島委員	<p>教育長さん、色々ご意見ありがとうございました。</p> <p>やはり人数の確保っていうのが一番難しいと思うんですけども、今、女子野球部がすごく盛り上がっていますよね。</p> <p>それで、何年か前に男子も県大会でいい成績をおさめた時に、すごく地域が盛り上がったと思うんですけども、一緒に男女野球部ってことで、室戸高校をもっと盛り上げようとか、そういう地域の話とかはどうでしょうか。これからあるんでしょうか。</p>

室戸市 教育長	<p>男子の野球部が甲子園に行った時には、甲子園でベスト8になったんですけど、私もスタンドから感激して応援しました。実は私も室戸高校の卒業生で、いっとき野球部に籍を置いていたようなこともあって、非常にうれしかったです。</p> <p>ですが、今の中学校の野球部の在籍者ということになると、もう非常に少なく、現在は連合チームで出場していますが、新チームになりますと、3校ぐらいが連合チームでやっと試合ができるかっていう辺りです。</p> <p>地域の人たちは熱い思いがあるので、女子も男子もっていう思いが当然あるんですけども、実態として、室戸高校単独でチームが組めないっていうのが実態です。しかし、願いとしては、OBとしましても、ぜひ、そうなってほしいなと思います。</p>
竹島委員	<p>甲浦とか、徳島の方にも進学されるじゃないですか。中学校を卒業して高校とかも、スポーツとかでなくて。海南とか何か、海部とかへも。</p>
室戸市 教育長	<p>室戸市からは、海南とか海部には、ほとんど進学はしておりません。</p>
田村教育長	<p>東洋町からは進学していますね。</p>
竹島委員	<p>女子野球部のように、全国から進学してもらえるといいですね。</p>
室戸市 教育長	<p>全国から来てくれるといいですけどね。</p>
竹島委員	<p>何かこう、長い目で見て、5年後10年後で。やはり人数の確保を頑張っていたきたいなと思います。</p>
室戸市 教育長	<p>ありがとうございます。</p>
平田委員	<p>教育長さんから、本当に小中高、また地域等を含めまして、双方向で連携しながら、室戸市の子どもを育てていくという思いはよく分かりました。</p> <p>私も、子どもにとってどうかということが、この再編振興計画では大きなポイントだというふうに、ずっと思っております。</p> <p>先ほども、話が出ておりましたが、一つには室戸高校が、総合学科としてスタートを切ったのは、約20年ぐらい前だと思います。やはり教育長さんがおっしゃったように、室戸という地理的なもの、経済的なもので、室戸で育った子どもたちが、様々な選択肢のなかで学習できるということで、4系列を置いたと思います。</p> <p>それで、現状において、この総合学科が4系列というのが、うまく機能しているのかなと。地域へ人材も貢献しているのかな、という思いが少ししております。</p> <p>それと、定時制という教育の役割はまた、働きながら学ぶというような意味</p>

	<p>合いが本筋だと思いますが、ここの資料を見ました時に、聴講生ということで、内容的にはよく分かるわけですし、現在、定時制の生徒が17名の在籍生徒で、聴講生が3講座で29名いるっていう、この、市としての教育に対する志を持った人が多いなと思っております。</p> <p>聴講生として室戸高校の定時制で学んだ、多分成人の方だと思いますが、この方々の感想なんかを知っておれば、お聞かせいただけたらと思います。また、事務局は知っているかも分かりませんが、どんな講座を置いているのかといったことも併せて教えていただきたいと思います。</p>
田村教育長	<p>校長の方でどうでしょうか。</p>
平田委員	<p>かまいません。最初の4系列は機能して、うまく人材育成が地域に還元されているかっていうことも併せてお答えいただけたらと思います。</p>
室戸高校 校長	<p>4系列ということですが、一番最初は、実は5系列ありました。それが生徒数が激減してきたということもありまして、平成26年度から4系列ということで、現在も続けているという状況です。</p> <p>この4系列でも、本当に専門教科や普通教科、これらをたくさん選択できるというようなことで、非常に生徒の方は、バラエティーに富んだ授業ができていますという状況です。</p> <p>ただし、生徒が少なく少人数でやっているということもありまして、逆にそれが非常に丁寧に、先ほど教育長さんの方も言われていましたけれども、伸びる生徒が非常に増えているというふうに思っています。</p> <p>今年は、60人卒業生がいますけれども、30人が就職です。あとの半分が進学。国公立大学の方は、5人ほど受けたいというふうになっております。</p> <p>そういった状況のなかで、やはり、いろんなことが学べる、いろんな技術を習得できる、そういったことができないと、現在の室戸の実情からすると、全員が進学というのは非常に難しく、できるだけ就職の方に行きたいという生徒がいる実態のなかから、総合学科のこの特色というのが、非常に今、合っているという状況です。</p> <p>県内で室戸に残れば一番いいんですけれども、やはりなかなか企業のこともありまして、難しい現状があります。ただし東部の方には、30人のうちの10人ぐらい、今年はそれこそ、JAに2人も行くことになっておりますし、結構、東部管内で就職という生徒がいます。</p> <p>ただし、高知県内ということになりますと、15人ぐらいということで、県内に半分ぐらいは残るという状況です。</p> <p>あとは、女子野球部です。先ほども出ましたけれども、やはり県外ばかりでして、その子たちは地元に戻って行くというような現状です。それから、いろんな給料のこととか、あるいは、一度は外に出て行きたいということもありまして、そういった観点から、半分ぐらいは外に出て行くということになっています。</p> <p>ただし、今年の生徒は、一度は出て行きたいけれど、実は、本当は高知に戻って来たいんだと。少し県外で学んで、高知で役に立つような者になりたいというような話は聞いております。やはり郷土学習をずっとやってきていることもあり、地元が好きというのが、室戸の生徒の特色なのかなと思っています。</p>

	<p>それから、室戸市外から来た生徒も、室戸の人間の温かさというか、そういうものに触れて、「室戸好きです」というようなことを言ってくれていますので、やはり、総合学科はそういった視点から、非常に、今は合っているという状況ではないかと思っています。</p> <p>それと、もう一つ、定時制の聴講生のことが出ておりましたけれども、私は今年来たばかりですけれども、最初に聴講生の入校式というのがあります。30人ほどを前に話をさせてもらったんですが、もう本当に目が輝いています。お年寄りというか、結構、私より年がいったような方もたくさんいるんですけれども、非常に熱心で、休む人もほとんどいません。この人たちがずっと来ている状況です。</p> <p>実はこの生徒たちと定時制の生徒は一緒に学びます。コンピュータなんかをやるので、やはり生徒は分かるので、教えたりとかいうことをしながら、一緒に学び合うということができていますので、非常に相乗効果というか、聴講生の人たちも生き生きとしていますし、それから、子どもたちもいろんなことに関わりを持つことで、非常にいい方向につながっているのかなと思っています。</p> <p>それから、夏に開放講座というの2講座を行っていますけれども、この開放講にも聴講生たちは積極的に出てくださいって、非常にうまいこと、今年回っているというような状況です。</p>
<p>室戸高校 定時制 振興会長</p>	<p>定時制振興会の会長です。後で、一般の方から意見ということだったんですが、今まとめて言わせてもらいたいと思います。</p>
<p>田村教育長</p>	<p>はい、分かりました。どうぞ。</p>
<p>室戸高校 定時制 振興会長</p>	<p>先ほど、最低規模というお話をされておりました。定時制の生徒全員で20人以上ということで中芸も、室戸も今現在は最低規模には達していません。</p> <p>ただ、見ていただきたいのは、室戸高校定時制は平成27年は11人だったと思います。それが今、17人になっております。それはなぜかといいますと、私も授業に参加しますなかで見ておりますと、やはり全日制の生徒が減るなかで、定時制の生徒が少し上向いているのは、生徒たちの小中学校でのいろんな、いじめだけではありませんが、いろんな状況から、定時制の役割がやはり、大きくなっていると私は感じております。</p> <p>そのようななかで、ここ数年、室戸高校の定時制の生徒が全国大会へ行くような時には、振興会の会員総動員でバックアップをするなどして、定時制の振興に力を注いでおります。</p> <p>今から計画をされるということですが、そのような状況も踏まえて、定時制をぜひ残していただきたいというのが、定時制振興会会長として、皆さんにどうぞお願いしたいと思います。私も定時制を卒業しております。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
<p>田村教育長</p>	<p>どうもありがとうございました。</p> <p>それでは室戸市の関係では、室戸高校ということかと思いますが、よろしいでしょうか。では、とりあえずいったんは、ここで終わりたいと思います。</p>

田野町
教育長

どうもありがとうございました。

それでは引き続いて、田野町教育長さんの方から、よろしくお願ひしたいと思ひます。

田野町教育長です。私は、この6月の20日から教育長を拝命しまして、行政出身の職員でございます。よろしくお願ひいたします。

それでは、こういう場でどういふ話から始めようかなと考えながら、この数日過ぎたわけですが、まず私事に若干なりますが、お話をさせていただきたいと思ひます。

私の息子、次男になるんですが、次男がちょっと特定疾患がありまして、骨形成不全症、安易に骨が折れてしまう病気です。小学校の2年の時に初めて骨が折れまして、小学校時代、約3年間入院しました。

中学校は地元の田野中学校に行って、ほかのお子さんに、うちの子がおることによって、何らかの負担がかかったら申し訳ないなということで、特別支援学級なんですけど、そちらで勉強してまいりました。

その息子が高校に進学するに当たって、息子と話をしたんです。「今まで、小さい学校ですずっとやってきて、特別支援ということで、先生にもお世話になってやってきたが、高校どうする」って。

人がいっぱいおる学校で、ひとつ揉まれて、そういう所で力を付けるというのも一つの手。まあ、残念ながら3年ぐらい入院して、苦手な部分なんかもあったので、そこをサポートしながら小規模校で、自分が将来、病院でお世話になりゆうので、医療関係の仕事に就きたいということを書いていましたので、そちらに行くってということも考えて、どうするっていふ話をしました。

その時に、うちの息子が言ったのは、僕は少ない人数のなかで努力をして、学校をサポートしてもらいながら、医療関係の専門学校なり何なりへ行きたいという話でした。それで、中芸高校に次男は進学しました。

私自身も中芸高校の卒業生ですが、私の長男は、実は中芸高校へは行っていません。次男がそうやって、中芸高校へ進学した関係で、また中芸高校と縁ができました。この3月に無事に卒業をさせていただきまして、本人の希望通り、本人の努力もあったんでしょうが、学校の温かいサポートによって、医療系の専門学校の方に進学しております。

そういう形で中芸高校と縁ができた関係で、中芸高校ではPTAの副会長を務めさせていただいておりました。副会長といひましても、卒業謝恩会の司会を行うのが、業務になってしまうような副会長だったんですが、卒業謝恩会に出席しますと、保護者の方が数名おいでになっているんです。

その保護者の数名からコメントをいただくんですけど、その際に出る言葉が、こちらの方にも中芸高校の、資料8の方にも出ておりましたが、不登校経験者、発達障害、そういうお子さんの保護者の方が、結構おいでになられていひます。

中学時代は、小学時代も含めて学校に行けなかった、家にずっとおった。高校へ入った時も、初めはなかなか学校に行けなかったけれど、実際に、中芸高校で色々サポートしてもらうなかで、高校3年間全うして、高校卒業という、世に出るためのパスポート、それを手にすることができたと。

そういうことで、感謝のお言葉と、大体のお父さんもお母さんも泣かれておひます。そういうのを、今まで見てまいりました。

中芸高校の生徒は確かに今年は11人の入学者でありまして、うちの子が卒業した時には20名余りの同級生がいたんですが、もう、こういう形になっています。

これはひとえに、生徒の減少もありますが、実際11人が合格者なんですけど、受験生はもっとおったわけです。やはり、高校に入って卒業できるまでの最低学力を、われわれ地教委も保障する、そういうところにも力を入れていかなければならないと考えております。

この中芸高校が存続するっていうことで、ぜひお願いしたいと考えているわけなんですけど、それは先ほど申しましたように、中芸管内のみならず、実は、おいでになっている生徒は、私の次男が入ったころだと思うんですが、高知の朝倉から、確かおいでになっている生徒さんもいました。そのお子さんは、対人関係とか色々とお悩みがあったんじゃないかと思うんですが、その方は毎日、朝列車に乗って通学して来られていました。

私の息子の同級生にも、香美市、香南市のお子さんがいらっしゃいます。そうした中芸地区のみならず、高知県の東寄りになってしまうんですが、そちらの方から、こういう学校の情報を聞いて、こちらに進学して、やはり世に出るための準備としまして、高卒資格を得たいと。そうお考えになられておる親御さん、お子さんなんかも、結構いらっしゃるということです。

そういう観点からいいますと、田野の一教育長が言うのもなんですが、やはり、なくてはならない学校ではないのかなと、私は思っております。

夜間部の方の話もございしますが、夜間部の方も、人数的には増えてくる傾向にこの資料で見ただけのんじゃないかなと思います。

ここの夜間についても、やはり諸々の事情で、普通学校でなかなか日中に通いにくいとか、そういうお子さんが、おいでになられておるというのもありますが、ここでまた、これも私の知り合いのお話をさせていただきたいと思えます。

私の知り合いで、まだ20代なんですけど、中学生ぐらいの時から結構やんちゃで、高校もなかなか行けなかった子です。

一人の子は10代で、15で中学校を卒業するわけなんですけど、それからしばらくして、このままやったら人生っていうのが考えた時にどうかなと思うということで、中芸高校の夜間部の門をたたきました。

まあ、知り合いの子だったので、何がしたいかって聞いた時に、「僕は公務員になりたいがや」と。「親にも迷惑をかけてきたき、高校を出てから公務員を受けて、公務員になって、親にお返しをしたい」と。

もう一人の子は、その子と一緒にいたんですが、その子が中芸高校の夜間部に入った時に、すぐには夜間部に入りませんでした。確か、何年かおいてから夜間部に入ったと思います。彼も最終的に人生を考えた時に、「友達がなっちゅうきというわけじゃないが、僕も公務員になりたい」ということを言うんですね。

この子は、草刈りの臨時で役場にきた子なんです。この子もそういうことで、夜間部の門をたたきまして、二人とも今、東の方で公務員になっています。昔は会うたら、「ういっす」みたいな感じでしたが、彼らはそういう志を持って、夜間部で勉強して、公務員学校にも確か行ったと思うんですが、割とすぐに採用になりました。そういう志を持って、夜間部の門をたたいて学んで公務員になったということで、今は地域のイベント、あとボランティア、運動会みたい

な催し物等でも中心的に結構、動いています。公務員としての仕事の姿勢も、素晴らしいものがあると思っています。

そういうふうに、やっぱり人間、ずっと学びに入れなくても、この聴講生が多いというのもちょっと見て、人間、学びたいと思った時に学べる環境というのがあるのは、すごく大事なのかなと考えます。

彼らも、こうやって中芸の定時制夜間部があったおかげで、日中働いて、そういうふうに勉強して、自分の行きたい道に向けて進むことができたわけです。彼ら以外にも、田野町の子供で中芸の夜間部に行って、高卒の肩書を持って世に出ていく生徒もいます。

そういうことを考えますと、やはりこの中芸高校の夜間部も、維持していただきたいと考えます。

もし、その夜間部がなくなって、どこかと統廃合となった時は、先ほど室戸の教育長さんもおっしゃられていましたが、やはり通学っていうのが、なかなかネックになるんじゃないかなと思います。

そうなった時に、就労して、それなりにバイトなり仕事なりして、大体夕方の4時～5時ぐらいに仕事をおいて、支度をして通えると考えた時に、通学時間が1時間もかかるようであれば、かえってそっちが負担になって、高校を卒業するっていう思いが、途中で折れる可能性、リスクがあるのではないかなと、私個人的には思っています。

先ほど、おっしゃられておりましたように、やはり交通事故の心配なんかもございます。学校が終わって夜の9時ごろに出たら、家に帰って色々したら、もう夜中の11時～12時になります。それから、次の日の就労に向かうのかということです。そうなった時に、先ほど言った2人のような、もし志を持っていても、なかなかしんどいんじゃないかなと考えます。

中芸高校っていう学校は今、私の町にある関係もありまして、うちの町なんかでも、色々イベントなんかにも参加していただいておりますし、中芸学っていう講座になりますが、それを生徒が毎年取り組んでいます。

それは何をしているかっていうと、中芸に生まれ育った子どもばかりじゃないですけど、中芸の魅力を高校生の観点から見て、それをプレゼンすることによって、地域の間が、また中芸の良さを感じることができる、そういうようなイベントであります。

それによって、「あっ、中芸高校にこういうお子さんがいらっやって、こういうことをしゅうんやね」と、地域の方々も中芸高校を身近に感じ、またその、自分が気が付かなかった自分の住みゆう町、自分の住みゆう地域の良さを感じることができる。これは素晴らしい取組だと思います。

それと、中芸高校が多部制の定時制の昼間部と夜間部という位置付けですよ。そういうところもありまして、中芸高校自体の定通制の、各種全国大会なんかに出場すべく、力を入れて取り組まれております。

やはりそれは、就労するに当たって、何らかの肩書を持って、何か一つ旗を持って行けるようにして、なるだけ世に出て行く時に有利に、ちょっとでも有利に進めるように、そういう取組やと私は考えております。

それに対しまして、中芸の5カ町村では、具体的な支援というわけではないんですが、全国大会出場なんかの経費の若干のプラスになるといいますか、そういう考えで、「中芸教育振興協議会」という5カ町村で立ち上げた会議の方から、幾ばくかの補助金を出ささせていただいております。

	<p>中芸5カ町村、それに地元出身の浜田県議会議員とかも会員になられているんですが、市町村長と議長で構成する会となっており、中芸高校を盛り上げていこうという地元の考えもございませう。</p> <p>こうやって、生徒が少なくなってくるなかで、やはり、そういう意味合いを持った高校ということで、われわれはぜひ、中芸高校を統廃合という形ではなくて、今の形で存続していただきたいです。</p> <p>当然そのためには、先ほどから申しておりますように、20人っていう枠はクリアすべく、われわれ地教委も努力が必要だと思います。先ほど一回申しまして、また重複して申し訳ないですが、基礎学力の定着は当然、われわれ地教委の業務でございませうし、こういう生徒に育てましたのでお願いしませうという形で、中芸高校に渡すような取組が、やっぱり必要かなと考えていませう。</p> <p>私事が多くて、非常に恐縮ですが、私はそういうふうと考えていませう。</p>
田村教育長	<p>どうもありがとうございました。</p> <p>基本的に生徒数が減ったとしても、今の形で、夜間部も含めて維持してもらいたいと、そういうお話だったと思ひませう。</p> <p>それでは、ご質問がございましたらお願いしませう。</p>
木村委員	<p>質問というよりも、私の個人的な意見なんですけど、中芸高校だけでなく、先ほどの室戸高校もそうなんですけども、やっぱり地域の未来を担う、地域の中核をなす人材は、地域で育てるんだっていうことが、一番大事な要点です。</p> <p>おそらく、教育委員会の皆さん方も、学校を統廃合するためにやっているわけではないんですね。本当に必要な人間を必要としてどう伸ばしていくかということを実際に考えていきたいと思ひているなかで、中芸高校のような、ある種、特別な高校なので、なくてはならないんですけど、そこに存在理由がちゃんとあるということにしなければいけないと。</p> <p>室戸にしても、どういふ子どもたちを、室戸として室戸のためにどう育てるか。室戸のためといひませうか、高知県のためにといひませうか、どう育てていくのか。距離的な要因とか、経済的な要因ももちろんありますけれども、地域の未来を担う子どもたちは、地域で育てていきますよっていうことが、非常に大事なことはないだろうかといふふうには、私は両教育長さんのお話を聴きながら、感じておりました。</p>
八田委員	<p>中芸高校は非常に特色のある、支援の手厚い学校ですし、それから、学び直しという非常に重要な役割といひのがよく分かったんですけども、その観点で質問したいんですが、中芸の地域として子どもたちの進路の状況といひか、どういふところを子どもたちは希望して、どんな進路に主に行っているのかといひのを、概要的なことでもかまわないんですけども、もしあれば、教えていただけますでしょうか。</p>
田野町教育長	<p>これは私からよりも、学校かなと思ひませう。</p> <p>確かに先ほどの室戸市さんと同様で、やはり産業的なものにつきましては、主たる産業が第1次産業になってしまいますので、なかなか地域に残って就労ということになりますと、やはり役場なのか、農協なのか。そういう形が主にはなってしまうと思ひませう。</p>

八田委員	<p>ただ、中芸高校の今の校長先生がおいでになった時に、初めて聞かれたことなんですけども、田野病院という東部の中核を成す一番東の端の夜間救急を行っている病院で「、看護師の奨学金なんかないでしょうか」ということでした。</p> <p>私はたまたま、事務長とはよく話をする仲でしたので、「ありますかね」とって答えたんですが、実際ありまして、そういう制度等を活用して、就労に向けてやっていくっていうのも一つではないかと思うんです。</p> <p>色々詳しい話になりますと、私の知識では適当なことは申し上げられませんので、学校の方に確認していただいたら分かると思います。</p> <p>気になっていることは、中芸高校からはちょっと離れていただいて、中芸地域っていうのは、ごめん・なはり線があるので、逆に高知市に通いたい生徒も結構いる地域だと思うんですね。</p> <p>僕自身は、個人的な考えとしては、高知まで1時間、無駄な時間を使うよりは、絶対地域で勉強してほしいと思うんですけども、現実には随分の子どもたちが西向いて通っているような感じがします。</p> <p>ではなぜ、子どもたちはどうしてそういうふうになっているのか。あるいは、どれぐらい実際に、こうやって高知市まで出てしまうのかっていうようなことが、もし分かればということなんですがお教えいただけますか。</p>
田野町教育長	<p>中芸全体のことは、把握しきれないんですが、田野町でいいましても、やはりおっしゃられるように、ごめん・なはり線が開通して、エリア外の学校に通うお子さんが増えています。最近の傾向としましては、やはり安芸や南国、高知市内の学校に通うお子さんですね。</p> <p>通いで通学している子供で、うちの町で一番遠くまで行っているのは、高知西高校です。商業前まで行きまして、そこから自転車でっていう子どもがおります。</p> <p>私の時は、実は中芸校区から安芸へ安芸へって、なぜか安芸へ行きたいっていう生徒が多く出始めたころだったんです。今は、なぜか分かりませんが、岡豊高校へ行きたいっていう生徒が実は少なくないんです。</p>
八田委員	<p>岡豊高校は、何かこう、理由があるんですか。</p>
田野町教育長	<p>ブラスバンドに入っている子もおりますし、卓球している子もおりますし、岡豊へ行って何しようかっていうわけではないけど、岡豊へ行ってという子もおります。私、高校生の子どもが今、2人おりますので、同級生にもそういう子がおります。</p> <p>地元の高校になぜ通わないかって言ったら、一つは、少し前までは、単位制っていうのに馴染みがなかった部分があると思うんです。</p> <p>私、教育次長に初めてなったのが平成22年ですが、その時に、中芸高校の方と話をする機会があって、「なんで中芸高校に生徒があまり来んがやろう」とって話があった時に、その時は、「単位制っていうのが一つ、馴染みがないがじゃないろうかね」とっていう話をしました。</p> <p>単位制であっても、定時制の昼間部であっても、進路としてこういうところは保障されますよと。例えば、国公立大学へも入学しているし、うちの子みた</p>

	<p>いに卒業して資格を取れば、就労につながる学校へも門戸は開けているよというのを、アピールしてみたらどうでしょうって話をして、その年は、東の方の義務の校長会があった時に、会議で時間をとっていただき、確か中芸高校の校長に学校の紹介をしていただいたと思います。</p> <p>そういうことを、またわれわれ地教委と中芸高校で連携して、学校のPRをもう一回やってみるのも一つの方法かなと思います。先ほどおっしゃられたように、毎月2万5千円近い定期代を払って、南国市とか高知市まで行く必要はなく、地元でもこういうのができるよというのがあれば、またそういう目で、向いてくる可能性もあるのではないかなと思います。</p>
田村教育長	<p>それでは、安芸市教育長さん、よろしくお願いします。</p>
安芸市教育長	<p>今日はどうかよろしくお願いいたします。</p> <p>実は、この会のご案内をいただきました時に、市長とも話をしたんですけれど、やはり、市長と同じ想いでやる必要が大事でございますので、意思の疎通を欠かさないようにというのを、基本にしているところでございます。</p> <p>それで、市長も今日ここへ出て来ようかと、実は言ってたんですけれど、今7時を過ぎましたので、地域の説明会の方へ行っておりまして、こちらへはどうしても来れないので、私の方がご報告をということとさせていただきます。</p> <p>それで私は、事務局の方から事前にお話をいただいた時に、まず、各市町村の地域づくりのビジョンとか、そういったものも聞かせてほしいというお話をいただいておりますので、これも市長と相談して、申し上げようかなというふうに思っております。</p> <p>初めに、安芸市の地域づくりのビジョンとしまして、これはもう、国・県がつくっておりますし、各市町村もつくっておりますけれど、「安芸市まち・ひと・しごと創生総合戦略」で4つの目標を立てています。</p> <p>一つが、産業振興により安定した雇用を創出する。2つ目が、安芸市へ新しい人を呼び込む。3つ目が、若い世代が安心して、結婚、出産、子育てができるまちをつくる。4つ目が、時代に応じた地域社会をつくる、ということとございますけれども、この文言の中には、教育委員会の学校教育、そして生涯学習という言葉は全然ないんですけれど、私、市長に申し上げたのは、この4つの根底には全て、学校教育・生涯学習が入っていますねということです。</p> <p>それでは安芸市として、教育委員会として、どういう目標をつくるかということで、色々と相談をさせていただいたんですけれども、そこで考えましたのが、「ふるさと安芸を愛し、志、夢を持とう」ということです。</p> <p>ふつう、夢、志といくんですけれども、あえて志を前へ持ってきました。これも意図がございます。本市は、岩崎弥太郎の出身地でございます、弥太郎さんが妙見山へ上がりまして、「吾れ志を得ずんば、再びこの山に登らじ」という言葉を書かれておりますことから、やはり「志」いうことで、志を前へ持ってきました。</p> <p>それで、弥太郎さんのごとく、高い志を持って、夢を描き自分を見つめ、未来を切り拓くたくましい人づくりということで、目標を設定しまして、定例の教育委員会にもおろしまして、教育委員さんからも賛同をいただいて、これももう安芸市の目標とすると、決めております。</p> <p>そして、地域の良さに気付き、様々な体験を通して、志の高い児童生徒を育</p>

てる。それはやはり、ふるさと学習であって、安芸市は童謡の里、書道の里、それから三菱源流の地、阪神タイガースのキャンプ地でもあるとか、色々ございますので、そういった全てでやっていきたいと考えています。

そして、時代を担う子どもの心に、ふるさとを育むことを大事にしていくと。そこで地域の人々との交流というのは、ふるさとへの愛着や誇りを培い、将来、地域に貢献できる大人へと成長していく可能性を育むと考えています。

ですから、ふるさとを愛する心を育てることは、地域を理解することから始まると考えます。そこで、学校教育として授業の中でどうできるかということなんですけれども、地域の教材化が必要になってまいります。

小学校の中学年、3～4年生というのは、社会科の副読本がございまして、『わたしたちの安芸市』、これに安芸市のことをやさしく網羅しています。そして、小学校高学年、中学生に向けては、『安芸市の人物』ということで、25名をピックアップして、別冊で副読本を作っています。

そして、その他にも総合的な学習の時間には、これ活用させていただいていますので、そういったものでカリキュラムを組み、実施をしていくということで、お願いをしているところでございます。

それで、総合的な学習の時間の全体計画へ、市教委の目標を書かなければいけないことが来年から入ってくると聞いておりますので、先ほどのことを書かせていただくようにしております。

それと、前から私、気になっておりましたのが、今教員には、目標設定シートと自己評価表がございまして、そのなかに、市教委の目標というのが書くことができるんですけれども、私、元教員ですけれども、教員時代にはなかったし、教育長になっても実施していませんでしたので、これを入れさせてもらおうということで、1学期の校長会で申し上げたことでした。そういうことで、地域学習も進めていきたいと考えています。

次に、安芸市の高校への進学の実況でございますけれども、過去3年を拾ってみました。そうしますと、室戸高校への進学はございません。今から10年ぐらい前になりますけど、私が清水ヶ丘中学校で勤務しています時に、野球がやりたいという生徒がいて、室戸へ何名か進学したのは記憶しておりますけれども、過去3年はもうおりませんので、室戸高校は省かせていただきます。

次に、中芸高校、安芸高校、安芸桜ヶ丘高校、ここのデータを取ってみますと、28、27、26年度の3年間ですけれども、年によって波はあります。ありますけれども、50%弱の子どもたちは、この3校にお世話になっています。

そこで、生徒の進路に対する考え方ですけれども、元校長であるということもありますけれども、やはり、地元志向の子どももいて、地元で進学校へ行きたいという生徒です。それから、工業高校、商業高校へも行きたいという生徒も、もちろんおります。

そして、安芸市は、申し訳ありませんが不登校・不登校気味の生徒がもうございまして、そういった子どもたちも、高校へは行きたいと思っております。さらには、特別な配慮、支援を要する生徒、こういった子どもたちもやはりおります。

それから、中途退学をして入り直し、学び直しをしたいという生徒もいて、私も一人覚えております。ある高校へ行っていて辞めて、行司をやりたいと言って、東京へ行ったんです。行ってやりゆうなと思っていたら、突然帰って来てきました。「無理でした」ということで、ではどうするとなった時に、

学び直しをしたいと。そこで改めて、高校を受検させていただいて、合格して、もうその子は卒業しておりますけれども、そんな子もおります。

それから、家庭の事情・状況、これも非常に重いところがあります。これはやはり厳しい環境ということが言えると思うんですが、安芸市でも、なかなか厳しいということがございます。

だけど、どの子も高校へやはり進学したい、高校を卒業したい。こういう生徒の想いは、叶えていただきたいなというふうに思っています。

次に、進む学校像や、育ててほしい生徒像というのがございましたので、私も考えてみたんですけれども、「地域のリーダーとなる生徒の育成」です。生徒というのはやはり、私、校長時代に言ったのは、「大きく羽ばたけ」と。「世界へ羽ばたけ、日本で羽ばたけ」と。「逆に高知県内で羽ばたくのもいいね、いや、安芸市内でもいいし、他の市町村でもいい」と。「自分にはそれぞれの想いがあるので、それを生かさない」というふうなことを話したことがございます。

そこで高校ですが、高校の方はよく見てないんですけれども、現行の教育課程のなかで、例えば地域学習については、小学校、中学校は重ねてきておりますので、それへ輪をかけて、さらに新たな視点で高校生として地域学習をしていただけるような、何かカリキュラムはないのかなと思っております。

安芸市の子どもが、例えば安芸市のことでいいし、他の市町村でもいいし、県でもいいし、そんなことを何か安芸高校ではやっているかもしれませんが、何かありましたら後でご意見いただければいいと思いますが、そんなことをお願いしたいなとは思っています。

それで、東部地域、現在の高等学校4校についてでございますけれども、これをどうするかというのは、ちょっと意見を差し控えますけれど、室戸高校には先ほど申し上げましたように、進学実績がございませんので、ここはもう、ご意見を控えさせていただきたいと思えます。

次に、安芸高校と桜ヶ丘高校です。普通科、工業科、商業科、それぞれございまして、こういったものを地元置くというのは、必要だなと思っております。

それは、両校の地元安芸市への貢献度は、非常に高うございます。資料8で簡単に載っていましたが、あんなものではございませんで、もっともっとたくさんございます。

安芸高校は、普通科の特徴を生かしたボランティア活動。そして、安芸桜ヶ丘高校は工業科、土木・建築です。それから、商業科の特徴を生かした活動をしていただいています。

いくつか申し上げますと、安芸高校さんは、今年のことだけで言いますと、1学期の終わりごろに私が外へ出ておりましたら、高校生と、先生が付いて道路のゴミ拾いをしていました。この時期に、こういうことは今までなかったなと思っておりましたので、安芸高校の校長とお会いすることがございました時に、「あれは何をしていたのですか」とお聞きしましたら、高校総体か何かの時に、行ってない生徒をボランティア活動に連れて行こうということでやってくださっていたと。だから、今までやっていたボランティア活動プラスαを、次々考えてやってくださっています。

これは一つの例ですけれども、安芸桜ヶ丘高校さんについては、地域からもお願いをしているところがございまして、例えば正月に井ノ口地区の方が、妙

見山へ、星神社へ行くんですけれども、あそこの登山道が崩れていたりなんかするんだそうです。それで、地元の方が先生方をお願いをしたところ、整備をしてくれたと。去年も今年もやってくださったと思いますが、その他にも球場の方から妙見山へ上がって行くのに、道路が崖崩れか何かがあって、なかなか市が対応できていないと。そんな時に、開いていただいて対応してくださったと。

商業科については、例えば市展のなかで安芸桜ヶ丘高校であれば、デザインについて本当は展示するというものではなかったんですけれども、今年初めてやってくださったと聞いております。

それから、安芸高校は書道部がごさいます。安芸市は書道の町です。書道部の方が市展へも特別コーナーみたいな所で展示をしてくださったということも報告があつておまして、様々なことが聞こえてきます。

そんなことを生かして、昨年12月、連携・協力に関する協定、「フレンドシップ協定」を安芸市と両校が結ばしていただいております。

もう少し申し上げますと、両高校と安芸市とがまちづくり、健康福祉、教育・文化・スポーツ、地域防災など多様な分野で相互に連携・協力し、若い世代の発想力や行動力を生かし、地域社会の発展に寄与することを目標としてやってくださっています。

その他、安芸高校の津波被害については、地域の方もそんなことをおっしゃっていましたので、どこかではっきりと申し上げた方がいいんじゃないかなとは思っております。

それと、今日、県庁西庁舎へ行きまして、アクションプランのヒアリングへ入ったんですけれども、その時に申し上げましたのは、保幼小中高連携教育推進協議会をやらせていただいております、市内の高校2校の校長先生には声をかけて、所属長会へ来てくださいとお伝えしています。そして、発表してくださいともお伝えしています。

一昨年は安芸桜ヶ丘高校の校長、去年は安芸高校の校長に発表いただき、高校が終わったので、次は小中のどっちかやろうということで、今年は小学校の校長が発表したんですけれども、来年は中学校、その次は保育と、そういった連携もさせていただいております。

これは何のためにやっているのかとよく言われていますが、段差の解消でして、小1プロブレム、中1ギャップ対策です。

本市は、それほど課題があるということではございませんが、やはりそういうことがあってはいけないので、事前にやっていきたいと思いますということで投げかけますと、保育の先生方も入ってくださって、一緒にやってくださっています。

それから、次に中芸高校さんですが、昼・夜間部について、今、安芸市は多様で、様々な事情のある生徒を受け入れていただいております。不登校とか不登校気味、特別な支援の必要な生徒、特別支援学校へ入らなくても、やはり支援の必要な生徒というのはおります。

今、来年度の市単の支援員配置について、両中学校から、今朝データがあがってきておりましたけれども、安芸中学校は1ヶタでしたけれど、清水ヶ丘中学校の方は2ヶタであがってきておりました。

やはりこういう生徒は、どうしてもおられますので、手厚い支援がいるんですけれども、そういった子どもたちを受け入れてくださっている。それから、

初めに言いました学び直し、家庭の状況のあるところ、いろんなことがありますので、そうした子供たちを中芸高校では受け入れてくださっています。

これは本当にありがたいことで、やはり子どもたちは、特に今の時期、中3の子っていうのはみんな進路が見えていますから、どこどこへ行くとかということが、話題に上っているんですね。だから、学力的に厳しい子供たちも高校へ行きたくなるんです。

だからこそ、行かしてあげたいと思うので。勉強がその子のせいではなく、他の要因で十分できなかつたこともあります。また、その子のせいのあるんですけれども、やはり行きたいという願いがあるのであれば、行かしてあげたいなというふうに思います。

結論から言いますと、この4校は安芸地区へは置いていただきたいなと思っております。それから、中芸高校でいいますと、私、この職に就く前に1年2カ月、退職した後、相談員をやらせていただいています。その時に田野分校さんに行かせていただいていた。その時に見かけた光景が忘れられないんですけれども、田野分校の児童生徒と、中芸高校の生徒さんが触れ合っているんです。これはいいなって思いました。

やはり小学生や中学生にとって、高校生とはなかなか触れ合うことはできませんので、ああいう感じ、同じ敷地の中にいるからこそその部分だなというふうに思って、いいなと思ったことでした。

ということで、もう時間が来てしまいましたけれど、どの子も進学したい、高校を卒業したいということで、存続をお願いしたいなと思っています。

ただ、今日の事務局のご説明の中であった言葉なんですけれども、1学年の1学級20人以上で最低規模とすると。じゃあこの20人って、どこから来たのかということなんですけれども。やっぱり、地域、地域に応じた状況というのが違うので、そういうところも地元と話をし、勘案していただけないかなと思っています。これは私個人の意見です。

それと、県立中学校については抜かせませんので、申し上げますけれども、県中への安芸市からの過去16年間のデータを拾ってみました。そうしますと、これはあくまでも平均ですが、6年生の19%、人数にして31名が進学しています。だからその分、市立安芸中学校、清水ヶ丘中学校へ来る子というのは減っています。

けど私は、それはそれで、県立中学校には県立中学校の目的があるので、県立中学校は県立中学校で頑張ってもらいたいと思っています。清水ヶ丘と安芸中学校については、私は両方で勤務しましたが、こちらはこちらで頑張らないかん、負けたらいいかん、追い付き追い越せ、というふうに言ってきました。

ただし、一方で学級数への影響はなかったのかなと振り返ってみますと、平成28年度の市立安芸中学校は、1年生で影響があります。その時のデータを拾ってみますと、県立中学校へ10人抜けて、安芸中学校へ34人、これトータルすると44人ですから、2クラスできるところが1クラスとなってしまいました。

これは教員の数にも関わってまいります。しかし、だからといって県立中学校にどうこうということではございません。私が県立中学校の校長に申し上げましたのは、「県立中学校は県立中学校で定着していますよ」と。

ある時、現職の時ですが、公園で草刈りをしておりまして、そこへ6年生の

	<p>女の子とその弟が通りかかったんです。で、6年生に「帰りゆうかね」と声をかけたら、「はい」と。何年生と聞くと6年と言うので、「中学校はどっちへ行くが」と聞くと、「向こう」と。これは県立中学校のことです。「私は、県立安芸中学校です」と。「どうして」って聞いたら、「お姉ちゃんが行きゆうもん」って。そういったことを聞きますと、定着をしているんじゃないかなと思います。だから、軽々しく県立中学校がどうのこうのという発言については、私は控えさせていただきたいと思います。</p> <p>そして、今年、29年度の県立中学校の入学者数を聞いたら、安芸市から過半数行っているなというふうな気がします。大変多く行っている。まあ、曲がり角には来ているんじゃないかなということで、終わりたいと思います。</p>
田村教育長	<p>ありがとうございました。</p> <p>地元の高校を大事に想っていただいているということと、それから、そういうことで引き続き存続してもらいたいというお話だったと思います。</p> <p>最低規模が20人というのは、あくまでも一つの目安ということで我々も考えていますので、そういうこともあって、こういう形で色々ご意見も聴かせていただいているというふうにご理解をいただきたいと思います。</p>
安芸市教育長	<p>分かりました。</p>
木村委員	<p>安芸高校は、海岸に面しているということもあって、もっと安全な地域への移転も含めて、おそらく安芸桜ヶ丘高校との統合という話が、話題に多分上がるんじゃないかというように思いますが、教育長さん、あえてその話題はおっしゃいませんでしたが、それについて何か、お考えのところがあったらお聴かせいただけないでしょうかと思います。</p>
安芸市教育長	<p>個人的に市民から聞く話としては、「活性化のためには、(安芸桜ヶ丘高校が)元に戻るのもやむなし」とか、「2校のままで頑張ってもらいたい」といった意見を聞く。なおお、地域としては、普通科、そして工業科、商業科は残していただきたいと思っている。</p>
田村教育長	<p>仮に統合する場合でも、学科は残してもらいたいということですね。</p>
平田委員	<p>お話も色々出てまいりまして、ありがとうございました。</p> <p>私がお聞きしたのは、仮に南海トラフ地震が起こった時、現在の安芸高校、また安芸桜ヶ丘高校の現在の位置について、どんなお考えを持たれているのかお聴かせいただきたいんです。</p>
安芸市教育長	<p>先ほど少し申し上げましたけれど、安芸高校の校長の方がよくご存じだと思うんですけども、実は先日、その件については安芸高校の校長からお話を聞いたんですが、耐震補強をされて、津波にも耐えられると。それで、上の階へ調理室を構えているということも言われていました。しかし、校舎からは海がすぐそこに見えていますので、あれで津波がザーッと、3.11のような感じで来たら、やはり恐怖心を抱くだらうなと思います。</p>

	<p>安芸桜ヶ丘高校の方も、今のデータでは5mとなっておりますが、山手の上へすぐに行けますし、球場の方へも上がれるようになっておるとお思いますので、安芸桜ヶ丘高校の方は大丈夫かとは思いますが。また、安芸桜ヶ丘高校は校舎が階段状になっているなというふうには思います。</p> <p>十分なお答えになっていないかもしれませんが以上です。</p>
八田委員	<p>大変貴重なご意見、ありがとうございました。</p> <p>前段のお話の最後の方で、「県立中学校はまあ定着している」っておっしゃっていただいたんですけども、子どもたちの目から見たら、県立中学校というのはどういう位置付けでしょうか。お姉ちゃんが行ったからってという見方はありますが、どういう位置付けで県立中学校を選んで、あるいは県立中学校へ行かずに市立を選ぶのか。その辺り、教育長から見たらどんなふうに感じられておられるのでしょうか。</p>
安芸市教育長	<p>難しいですね。これも、あくまで個人的になるんですけど、県立中学校の場合は、事前に学校説明会をされています。もちろん安芸市立も説明をしていますけれども、やはりその中で、この学校へ行きたいというのをある程度決めるのではないのでしょうか。そうじゃないと地元には学校があるわけですから、そんなに行かないと思います。</p> <p>ただ今は、この間、県の駅伝大会もございましたけれど、県立中学校が頑張ってくれていますので、「市立も負けるな」って私はハッパをかけています。そこは、お互いの学校が競い合うことができるので、私はありがたいなと思っています。そういう意味では、県立中学校は目標になります。</p>
田村教育長	<p>県立中学校については、よかったら田野町教育長さん、室戸市教育長さんからも、お考えをいただいたらと思います。</p>
室戸市教育長	<p>県立中学校については、先ほどの話にも出ましたけれど、私の最後の勤務校が吉良川中学校ですが、その時にちょうど吉良川小学校の6年生が10人程度でしたか、うわさで私立も県立も含めて、8人ほど出て行くっていううわさがあって、2人しか入って来ないのかって思った時がありました。</p> <p>その時の理由は、県立中学校は陸上部、サッカー部へというのが多かったです。陸上部は当然吉良川中学校にはなかったし、当時、サッカー部ももちろんない吉良川中学校でしたので、部活動関係で選択する子どもが多かったです。</p> <p>ただし、8人行ったのかという話なんですけど、その時の学級担任が、実は今、教育センターで勤務している女性なんですけど、「あなたたちはこうやってみんな、いい出会いをし、仲間だ」と。「吉良川中学校の先生が、あなたたちのことを一番よく見ているので、この仲間で中学校へ行くのを先生は勧めるよ」と言ってくれたので、逆転して10名中8名が入って来ました。</p> <p>やはりその辺の学級づくり、学級経営をして、仲間づくりをしたら、「みんなこのまま行く方がいいよ」という先生の一言が、私はありがたかったですね。と同時にそういう教員であったり、学級づくりはすべきだなと、その担任に感謝したことがありました。</p>

<p>田野町 教育長</p>	<p>田野町も一時、子どもに聞いたら、過半数が県立中学校へ行きたいという時代がありましたし、実際に全6年生の3割以上が、県立中学校に流れていた状況もあります。</p> <p>先ほど申しましたように、私は子どもがちょうど小学6年生だったりしたその間にありますので、保護者間で、「なんで県立中学校なのか」という話をした時に、これを言うと今、田野町の教育長をしているのであれなんです、学力保障が県立中学校の方があって思っている保護者が結構多かったです。</p> <p>田野中学校へ行くよりも、県立中学校に行つて安芸高校に進んで、そこから先に進路なり何なりってところが、田野中学校よりはもうちょっと多分、保護者なんかのイメージが良かったんじゃないかなと思います。大体のお父さんお母さんと話しても、そういう話が多かったです。</p> <p>そういうこともあって、先ほど室戸市の教育長さんがおっしゃられたように、クラブがらみで行きたいという生徒もやはりおりました。サッカー部があるっていうのもありまして、そういうお子さんもいらっしゃいました。</p> <p>最近はずっと一時の半分以上が県立中学校を希望する、一緒に希望するようなことは少なくなっていると思います。というのは、やはり室戸市さんがおっしゃられたように、その時の6年の担任の先生の影響も結構あったと思います。</p> <p>それと、当然田野小学校ですので、田野中学校へ体験入学を全員するわけですが、その時に体験したクラブ活動の雰囲気良くなって、去年の成人式の組は、もうほとんどの者が田野中学校へ行きました。</p> <p>生徒の半分以上が、多分ブラスバンドをやったと思います。ブラスバンドのパフォーマンスがすごく良かったらしくて、その中で、今音楽関係の裏方さんですけど、仕事に就いている子なんかもいます。</p> <p>最近はお兄ちゃんお姉ちゃんが行きゆうきって、希望する子の方が大部分です。</p> <p>田野町も子どもの数は少ないんですけど、一時みたいに、県中へ何人流れるがやろうって心配するような状況ではなくなってきています。</p>
<p>田村教育長</p>	<p>ありがとうございました。 安芸市教育長へのご意見、ご質問等は、もうよろしいですか。</p>
<p>各委員</p>	<p>構いません。</p>
<p>田村教育長</p>	<p>それでは、予定しておりました3人の教育長さんからご意見をお聴きし、それに対して色々ご質問させていただくということについては、以上で終了させていただきますと思います。</p>

○会場からの意見聴取

<p>田村教育長</p>	<p>それでは、会場の皆さんで、特にご意見等ある方がございましたらお聴きしたいと思いますが、いかがでしょうか。</p> <p>あるいは、今話題になった学校の校長も来ていますので、もしよろしければご発言いただいたらと思います。あればかまいませんが、よろしいですか。これだけは言っておきたいとかいうようなことがあれば、今、発言いただいた</p>
--------------	--

八田委員	<p>らと思います。</p> <p>その他の方でももちろん結構ですが、いかがでしょうか。よろしいですか。教育委員の皆さんはいかがですか。</p> <p>勝手な思いなんですけれど、なかなか人数が減ってくると、本当に全部存続できるかどうかは分からないところがあって、これからどういう議論をしていくかっていうことになるわけですが、それとは少し切り離れた話として、いろんな学校を訪問した時にいつも感じるのは、学校の前が結構寂しいってことがあるんです。それで、例えば安芸高校であれば、安芸駅から学校まで行くルートってというのが、どんな雰囲気かっていうのが、今日なんか夕方だったから、結構もう暗い道だったりもしたのですが。</p> <p>それは安芸だけではなくて、いろんな学校が共通に持っていることなんですけど、なんかまちづくりのなかで、高校を中心に据えていただけなのかなと思っています。もちろん、それだけではないですが。しかし、何かこう子どもたちがよく歩く場所ってというのは、まちですごく活気のある所で、なんかちょっとワクワクして歩けるような、そういうまちづくりをしていただきたい。もちろんお金もかかるし大変なんですけれども、何かそういうことがあると、子どもたちにとって、それも学校の一つの魅力になるんじゃないのかなと思います。</p> <p>もしそういうことを考えていただければ、ありがたいなと思いました。この機会にぜひ、と思います。</p>
田村教育長	<p>室戸高校も中芸高校も結構山の上なので、山だったりしてなかなか周りはそういう環境にないというのは現実問題としてあると思います。</p>
八田委員	<p>安芸も、何か大人もあまり元気がない感じもして、少しか寂れているっていうと怒られますが、ちょっと静かすぎます。もう少し何か、まちがそこを中心ににぎやかになるようなプランがあるといいなと、ちょっと思いました。場所が変わったりしても、また大変ですね。</p>
中芸高校 校長	<p>中芸高校の校長です。</p> <p>地域から見た学校の場所なんですけれども、中芸高校は、田野町の地域一円が浸水地帯になっておりまして、もう町中に、「非難する時は中芸高校へ」というプレートを出していただいております。</p> <p>田野町はこの2年ぐらい、真剣に町の避難計画に取り組んでくださっておりまして、私は校長になって4年目なんですけれども、長いこと学校に入って来る所の町道があるんですけれども、そこがとても狭くて、総務委員会の視察の際にも下でバスを降りて、県議会議員の皆様には上がって来てもらうっていうような、そんな場所になっております。</p> <p>そのことについても、田野町の方で、できるだけ早いうちに援助をいただけるということが最近決まりましたので、そんなふうに町ともまた力を合わせて、そういうハード面の方でも、意見を出していきたいと思っております。</p>
田村教育長	<p>どうもありがとうございます。</p>

室戸高校 校長	<p>室戸高校ですが安芸市の方からは室戸へ来ていないということで、ちょっと寂しかったのですが、一つだけ言わせてください。</p> <p>普通科と総合学科のことについて、先ほどお話をさせていただきましたけれども、定時制の方は今回の資料の中で、ちょっと分かりにくい部分がありますので、補足させていただきます。</p> <p>実は今年、17名生徒がいます。そのうち8名が2年生以上の学年です。従いまして、1年生が9名入って来たということです。非常にこの1年生が元気で、勉強もすごく熱心にやってくれています。中学校の方からも見に来ていただいて、「頑張ってるね」というお話もいただいております。</p> <p>今現在、実は20人を切った状態が、ここ3年間続いているんですけれども、これから先、非常に私は期待をしております、もう少し長い目で見ていただけたらなという想いがありますので、よろしくお願いします。</p>
田村教育長	<p>それぞれの教育長さんから、この東部地域の高校を大変、大事に想っていただいているということが伝わりました。そういったご意見を踏まえて、これから検討をさせていただきたいと思います。</p> <p>あと私から一つだけ、3人の教育長さんにお考えを聴かせていただきたいんですけれども、地元の中学校から高校への進学ですけれども、いろんな形で地元の中学校との交流とかいうことも、積極的にやっていたいなかにあって、やっぱり実際の進学者は半数とか、あまり多くない。パーセンテージでいうと、そういうような進学の数かなというように思うんです。</p> <p>これをさらに、もう少し地元からの進学者を増やす方策というか、今もいろんな形で交流をやっていただいているということは、十分承知をしたうえでということなんですが、さらに何らかの手立てがあるのかどうか、という辺りをお聴かせいただけたらと思います。</p>
室戸市 教育長	<p>実は教員対象のアンケートがあります。そのアンケートを見ていると、やはり学力の高い子は高知市内志望が強いのかな、という辺りが一番多かったような気がします。</p> <p>それは、最終的に進路先って、本人と保護者が決めることであろうけども、私としては、先ほどの吉良川小学校から中学校への担任の一言二言、やはりそういう想いで、地元というか、地域と一体になって取り組んだなかでの結果ということになるんだろうと思います。</p> <p>やはり教員が、みんなこの仲間で一緒に中学校まで行きよ、行った方が先生はえいと思うよ、中学校の先生はあんたらのことを一番知ってくれてるし、見てくれてるよっていう想いで、取り組んでくれることが大事になって、そんなふうに思っています。</p>
田野町 教育長	<p>田野町も、田野町にある中芸高校への進学者が、そんな決して実は多いわけではないんですけど、この3月に限っていいましたら、やはり受検した生徒の中で、中芸高校さんでお世話になることができなかつた子どももいます。</p> <p>それは、家庭も複雑だったんですけど、やはり学力的な問題もあったし、そういうところでいいますと、お話の中で言わせていただきましたように、我々地教委も、「ここまで子どもを育てたので、あとお願いします」と言えるだけの、基礎学力を定着させなくてはと思っています。</p>

安芸市
教育長

中芸管内では他の自治体も、毎年のは正直ごめんなさい、データをはっきり持っておりませんが、やっぱり何人か高校に入れなかった生徒がいます。そういうところのお子さんたちが、中芸高校でお世話になっていただけるように、我々地教委も力を付けて行って、1人、2人、3人と進学させなくてはと思っています。

東部で高校に入れなかった子は今、通信制の高校に入っています。そういうお子さんも本当は通学できる学校に行きたかったんですね。なかなか家庭環境が複雑で、学力がどうしても追い付かない部分もあって、ちょっと難しかったんですが。ただ高校にお願いするだけではなく、そういうところを我々地教委が変えていく必要があるのかなと思っています。

また、高校の方も、中芸高校に行ったらこういうところで、あなたの未来についてのサポートができますよっていうところを、子どもだけじゃなく、親も含めて、なんかもうちょっとPRしていただく。その辺は、先ほども申しましたように地教委として、中芸高校ともお話しして、やっていかななくてはいけない部分であると思います。

親的には、私も先ほどから申しましたように、まだ子どもが何人かおられますので、最終的に子どもが自立して、自分で立っていけることっていうのを望んでいます。

それからいきますと、そういう形でなるだけ、高卒のパスポートを中芸高校で取れるように、基礎学力の定着というところは、しっかりやっていかななくてはいかんと思います。

地域の中から進学するには、ということなんですが、両方の考え方があると思います。それは地域からと、高校からです。では、高校から何をしますかということですが、私が校長時代に言ったのは、「アピールに来てください」と。やはり子どもが行きたいと思うようなことを言ってくれないと難しいです。今の校長先生方ではないですが、だいぶ前の校長先生方の時にはそういうことを感じていました。

やはり、そういったアピールをしなければいけないと。しかし、現在はアピールにも結構来てくださっています。それから、ボランティアで申しあげましたように、安芸桜ヶ丘高校も、安芸高校もたくさん触れ合ってくださいています。

それでは何ができるのかっていうと、一つ大きいのは、私は列車が通じたことだと思います。それから、7%だったと思うのですが、昔は郡部から高知への入学枠があったと思います。あれは廃止になりましたよね。私が校長時代になくなったんですけど、そんなこともあってよけい高知市内へ行きやすくなっています。逆に言ったら、だからこそ地元へ引き止めるためには何をしますかということ、高等学校側も考えなければいけないだろうと思います。

だけど、そうはいつでも、向こうも色々あって忙しいので、いつも来れるということではないことも分かっています。

だからこそ、ではどうするのか。できるだけ密接に、やっていかなければいけないだろうなと思っています。やはり知恵を出さないといけない。今、私、そんな知恵を持っていませんけれど、校長先生方、また安芸市立の校長先生方と相談していただいても、安芸市は構わないと思っています。

やっぱりどうしようと、校長先生方が、もっとうちへ来てもらいたいんだ

田村教育長	<p>ということがあれば、アピールする機会を取ってくれませんかというように、どんどんおっしゃっていただいて、そこは協力しなければいけないと。やはり地元は盛り立てていきたいので、そのようには思っております。</p> <p>はい、どうもありがとうございました。</p> <p>私の中では、中学校の先生の意識の問題、それから高校側からのアピールの問題、それから学力保障の問題といったようなことが、お話としてあったかなというふうに思います。</p> <p>特に高校側から地元の中学校へのアピールというのは、先生の意識を変えていただく、向けていただくという意味でも、大事なんだなというふうに思いますので、ぜひ校長先生方、よろしくお願いします。</p> <p>それでは、特にご意見、ご質問等ございますか。よろしいですか。</p>
各委員	構わない。

【閉会】

田村教育長	<p>それでは、予定していた時間も大体まいりましたので、特にご意見がなければこれで終了させていただきたいと思います。夜間まで本当に、大変ご苦労さまでございました。ありがとうございました。</p>
-------	---